

第3期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議（概要）

日時：令和7年12月22日（月）

10:00～11:00

会場：三朝町役場第2会議室

1 開会

2 松浦町長あいさつ

3 自己紹介

4 議題

（1）第3期総合戦略概要説明

人口ビジョン・・・資料2

総合戦略・・・資料3

（2）意見交換

【第3期総合戦略概要説明】

“人口ビジョン”

- ・総人口は依然として100人ペースでの減少が見られる
- ・生産年齢人口の占める割合は50%を下回っている
- ・老年人口の方は先ほど申し上げたように、40%上回っている
- ・出生数は一貫して減少傾向 ※近年は最低水準
- ・転出数が転入数を上回る年が多く、人口流出が続いている
- ・減少傾向、どれだけ緩やかにするかというのが重要になってくる

“総合戦略”

- ・基本方針に、人口減少社会への対応、デジタル技術の活用、それから若者や女性に選ばれる地域づくりを掲げる
- ・将来像1では、教育施設の拠点集中を生かした園-小-中の教育連携、GIGAスクールの第2期推進等が挙げられる
- ・将来像2では、消防団の再編、防災学習会の開催、空き家問題に関する対策が挙げられる
- ・令和8年2月には、路線バスにおいてIC決済サービスが導入予定
- ・将来像3では、子育てに関わるもので親子の支援、保護者の不安や悩みに寄り添う安定的なサポートの必要性が挙げられる
- ・健康増進、介護予防の推進では、温泉を活用した健康まちづくりに取り組んでいる
- ・将来像4では、ふるさと応援寄付金の市場が拡大傾向にあり、資源の活用という意味で積極的な情報発信に努める
- ・旧三朝小学校を三朝町交流拠点施設と位置付け、今後改修や利用方法を定めていく

- ・将来像 5 では、デジタル技術の活用に関連して町でもDX推進計画を策定し、デジタル技術を使える人使えない人との格差が生まれない体制づくりが必要
- ・移住定住や空き家に関連して、町では地域プロジェクトマネージャーを任用したところであり、学生や若者、外部人材の視点を取り込みながら新たな取組が必要となっている

【知久馬委員】

- ・三朝温泉観光協会では、プロフェッショナル人材の活用として、外部から専門家を派遣し、他地域の温泉地との比較に取り組んでいる
- ・コンテンツ事業として、温泉むすめを導入したことで三朝温泉を訪れる観光客の年齢層が広がったと感じる
- ・色んなことで三朝に興味を持ってもらうことはできてきたが、仕事先がないことが移住につながらない要因だと考える

【福田委員】

- ・町の新規創業支援の効果もあり、商工会へ加入される事業所は少し増加している印象
- ・個人的に思うのは、行政が宅地を造成して若い方に安く提供していくことができれば、町外に出ている出身者も帰ってくる可能性があると思う
- ・どの事業所においても人手不足があると思うが、町外や県外、全国から担い手を募集し、承継・譲渡に取り組む事例もあるので是非参考にしてもらいたい

【加藤委員】

- ・林業に携わる若者支援として、アカデミーの実施や林業大学に通われる方への組合独自の奨学金制度を行っている
- ・林業や農業からなる1次産業、観光産業が三朝の主要産業であることから組合としては1次産業で働いてもらえるよう環境づくりを進めていく必要がある
- ・山や農地を守ることがとても重要で、奥部の荒廃農地を増やさないために行政と一緒に考えて、取り組む必要がある

【亀谷委員】

- ・県中部の高校生は、東部西部に比べて県外就職を希望する方の割合が多いというデータがある
- ・管内の企業の魅力を伝えるために事業所説明会やSNSを活用した情報発信に努めている

【高見委員】

- ・地域づくり、まちづくりセンター構想がある中で多様な人の意見を聞く、取り入れることが重要

- ・10年後、20年後を考えた時に山間地の農地を誰が保全していくのか、今のうちから検討する必要がある

【尾崎委員】

- ・三朝町は、鳥取県の真ん中という立地を生かして、近隣自治体との連携した取組があっても良いと思う
- ・高校生と一緒に課題解決につなげる取組を目にしたが、地域の子どもや学生と一緒に考えることが将来的に経験・思い出となって故郷に戻りたいという気持ちにつながると思う

【小林代理】

- ・人口減少、少子高齢化は全国的な問題で避けられない一面がある
- ・三朝は温泉を中心とした観光資源が強みであることからPR・情報発信は取り組まれていることと思うが、今後も継続することが三朝スタイルの実現につながると思う

【松村委員】

- ・今回の総合戦略の中でも一番重要なことは人口減少をいかにして緩やかにしていくかということだと思う
- ・そのためには創業、事業支援、事業承継は関連して重要と感じる
- ・物価高騰や金利上昇等で移住や創業がしづらい状況があるので、三朝町ではどのような支援があるのかを宣伝する必要がある

【杉本委員】

- ・郵便局は、地域の拠点としてどのように地域にお役に立てるかを考えている
- ・郵便局というところは地域コミュニティであったり、情報発信の場所、さらには職場体験の受け入れ、保育所との関わりを通して地域貢献をしていきたい
- ・災害時の人や家、道路状況など行政と連携・共有できる情報は有している

【蛸積委員】

- ・デジタル技術の活用・推進という面では、三朝町に提案できることがいくつかある
- ・デジタル庁のデータによると三朝町は、買い物や交通環境が極端に低いといえる
- ・事業創造の分野も低い値となっていて、これが買い物や交通環境に起因するのか現状データでは見て取れないが、今後町のデータを集めるようなことでお手伝いできる

【岸田コンシェルジュ】

- ・三朝温泉、三徳山のブランドをより一層PRをしていくことが重要
- ・キューリー祭に初めて参加して児童・学生にとってふるさと愛の醸成につながっていると感じた

【松浦町長】

- ・国の施策や新しい動きを取り込むことは当然に大切なことだが、基礎自治体として自分たちの個性を忘れてはいけない
- ・人口減少の対策として、関係人口・関係企業を増やし、一緒に考えることが必要
- ・雇用について、三朝の中で事業を起こされる方、若い方、高齢な方の働ける環境の整備は必要である一方、三朝町単独で雇用環境を充実させることは難しい一面もあるため、中部圏域、県内圏域での雇用環境創出が重要

5 閉会

11:00 閉会